

## 小学生高学年の部

富士宮市立上野小学校

## 中野 瑛介

ぼくが毎日見ている美しい富士山は、長い年月をかけて四つの山からできていることを最近知りました。

ぼくは、小学校一年生から陸上競技をやっています。百メートル走、走りはばとび、ハードル、リレーなど、色々な種目に挑戦しているけれど、ぼくはやっぱ四人でバトンをつなぐリレーが好きです。

リレーはただ速く走るだけではうまくいきません。仲間とバトンをつなぐタイミングの相談をして、たくさん練習をしないと、バトンがつながりません。みんなでつなぐバトンはとても重く感じます。でも、四人のバトンがうまくつながったゴールのしゅん間は、とても気持ちがいいです。

長い年月をかけて四つの山からできている富士山、たくさん練習をして四人でつなぐリレー、なんだかにているな、と思いました。ぼくも富士山くらい美しいリレーを、仲間と走りたいです。

富士市立丘小学校

## 白井 奏翔

この前、本でフェーン現象というものがあることを知りました。フェーン現象というのは、冬の寒い北風が山に当たり、山の北側では雪が降り、南側は暖かくなるというものでした。

最近テレビで日本の各地で大雪が降って交通もうがマヒしたり、物流が止まっているというニュースをよく観ます。

ぼくはスノーボードをしに長野や新潟に毎年行くので大雪の大変さはよく知っています。ぼくが住んでいる富士市は富士山が雪を止めてくれていて、からこそ暖かくて過ごしやすい冬をもたらしてくれているとわかりました。

雪化粧をしている富士山はとてもきれいだけれど、ぼくたちのために体を張って寒さから守ってくれていると思うとありがたいことなんだと思います。

ありがとう富士山！  
いつか山頂からスノーボードしてみたいな。

富士宮市立貴船小学校

## 植松 真由

富士山こんにちは。私の住んでいる所ではとてもよく富士山が見えます。そちらは、日本一の景色はいかがですか？私はまだ自分の足で登って見たことはないけれど、いつか頂上まで登ってみたいと思っています。日本で一番高い山、そして世界遺産がこんなに私のすぐ近くにあり、見守ってもらえるのが幸せです。この間、三重まで家族と旅行に行ったとき、お店のお姉さんに「あなた達の所はいつでも富士山が見えるんだ、幸せねえ」と言われ、（そうか、こっちの人達は富士山が見えないんだ）と考えた時、あんな近くで富士山が見えるのがうれしく思え、そして、早く帰って富士山を見たい気持ちになりました。そして帰ってくる時、私は（やっぱり富士山が見えていた方がいい。そして、この富士山の見える富士宮に生まれてよかった。）と思いました。あれから、富士山をよく見上げ、よく富士山が見える所で、写真をとっています。私は今、とても幸せです。

## 小学生高学年の部

富士宮市立大富士小学校

## 加々美 心結

富士山。わたしは小学生になってから毎年一月一日のがんたんにご来光を見るのが家族での一年のはじまりの行事になっていきます。とても寒いのにご来光を見ると体があたたまるとような気がして、気分がいいです。その時、わたしのうしろに見えるのが大好きな富士山です。富士山がご来光にあたってキラキラ光っているのがとてもステキで大好きです。二日か三日にはたこあげに行きます。母がわたしのあげたたこときれいな富士山を写真にとってくれます。家族としんせきといっしょに遊んでいるすがたを大きな富士山が見守ってくれているように見えます。朝、げんかんを開けると、目の前に見える富士山に、いつも元気をもらっています。友達にいやなことを言われてつらい時やおこられて悲しい時も、大きな富士山を見るとちっぽけなやみに感じていやなことをわすれられます。いつも元気をくれてありがとう。これからもきれいなすがたを見せつけてください。

富士宮市立富丘小学校

## 宗田 桜翔

ぼくの家からは、大きな富士山が見えます。ぼくの朝の日課は、犬の散歩です。散歩といっても、あまり歩かない犬なので、家のうらの公園に行くだけです。最近、公園の木にはとが巣を作って子育てをしています。その子育てを見守りながら、卵からひなが生まれました。ひなが生まれた時、富士山の雪はすっかりなくなり、緑色にそまった富士山がぼくと同じようにほとの子育てを見守っているように思えました。いつひなが飛び立つのか、楽しみでなりません。その時、富士山の色は何色になっているのかな。

毎日、毎日同じ景色だと思っただのが、はとのひなの成長を見てみると、少しずつ出来ることが増え、ぼくの日課の散歩にも変化がでてきました。毎日見えている富士山も、少しずつ色が変わり、ただの散歩が楽しみに変わりました。ぼくと富士山は、はとのひなの成長をこれからも見守りたいと思います。

富士宮市立大宮小学校

## 野原 采紗

富士山へ

この前、富士宮駅前十六市が二十五周年を迎えました。

富士宮駅前には、地域の人はもちろん、外国から来た人もたくさん集まります。

みんな富士山を見上げながら、笑顔で歩いていて、とても楽しそうです。

外国の人が富士宮に来る理由はいろいろあるけれど、一番多いのは、やっぱり富士山を見たり登ったりすることです。

登山の服や大きなリュックを持った外国の人が歩く姿を見ると、「やっぱり富士山は世界の宝なんだ」と思います。

世界みなさん、ぜひ富士山に会いに来てください！

青空にそびえる夏の富士山、雪で真っ白な冬の富士山。どちらも心にずっと残ります。

富士宮では、十六市やお祭り、おいしい食べ物など、たくさんのお楽しみがあります。

これからも美しく、みんなを迎えてください。

小学生高学年の部

富士宮市立大宮小学校

木谷 南翔

ねえ富士山、日本中が見える君に聞きたい事があるんだ。君から見える日本は平和ですか？ぼくは今年、戦没者追悼式に参加した。そこで平和について戦争について考えさせられた。今、日本のみんなは争いがなく幸せに生きていますか？ニュースでは色々な事を聞かされる。人間同士の事、自然災害の事、お金の事、あらゆる事で人間が泣いている様にも思える。

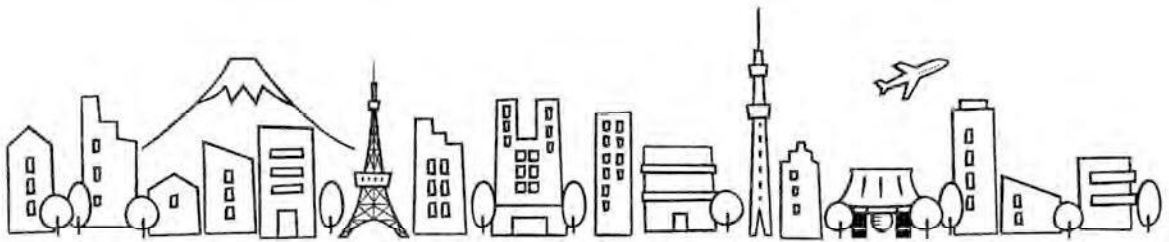
ねえ富士山、君にはどういう様に見えるの？君の様に大きな森林を持ち、その森林からキレイな空気、キレイな水を作り出す大きな力。その大きな力はとても穏やかで、とてもゆつくりで、すべて時間をかけて日本中をキレイにしてくれているんじゃないかと感じる。君の様なその穏やかな時間、穏やかな気もちで生きてみたいと感じる。

君がずっとぼくを見てくれているから、ぼくは一人の人間として日本、世界を平和にできる様に生きてみたいと思う。

愛知県・豊橋市立福岡小学校

志賀 優龍

ぼくは、富士山が好きだ。東海道新幹線で移動するときは、車窓から必ず見つめ、旅の無事を祈る。新年の初日の出のテレビ中継を毎年楽しみにして、テレビの富士山にむかい、新年の願掛けをしている。初日の出と一緒にテレビに映る富士山がダイヤモンド富士山のときは、一年が良い年になる気がして、とても嬉しくなる。富士山には、見る人を幸せにする力があると思う。ぼくは、富士山をとりまくぼくたちの社会は変化しても、富士山は、昔から変わることなく、そこにあり、偉大さ、厳しさ、美しさを教えてくれていると思う。富士山の変わらない美しさが、人をひきつけ、祈る心を生んでいると思う。だからこそ、ぼくたちは、富士山の変わらない美しさを守り、未来につないでいくことが大切だと思う。それが、富士山と共に生きることだと思う。



## 中学生の部

富士宮市立芝川中学校

## 石川 旺雅

七月六日僕は中学校の部活を引退しました。富士宮市はどこでも富士山が見えて、富士山に見守られながら試合をすることが多く、いつも力をもらっています。試合に勝ったときは富士山が近く大きく感じます。しかし、負けたときは遠く小さく感じることもあります。中体連準決勝の日にはよく晴れていて富士山がきれいに見えていました。富士山に見守られながら試合を行っていました。試合は勝敗がつかないままPK戦になってしまいました。結果は五対四とあと一步届かず僕達の部活動は終わりをづけました。しかし、ふと富士山を見ると、力強く大きく感じました。いつもなら、遠く小さく感じていた富士山が真逆のように感じられ、僕はそれを「まだこれからだよ。」という富士山からのメッセージのように感じました。これを機に、一度節目がついたと思い、高校に向けて気持ちを引きかえて頑張っていこうと決めました。

富士宮市立芝川中学校

## 滝浪 花音

私の学校は、昨年度一月から新しい校舎になった。入学してから昨年度十二月までは、プレハブ校舎で生活をしてきた。歩くと床がぎしぎしと音を立てる校舎の外からは、工事の音が床のきしんだ音なんて気にならないくらい大きく聞こえた。時々窓の外をながめ、壊されていく旧校舎と、どんな形になっていく新校舎をながめていた。昨年度十二月頃教頭先生が新校舎を案内してくださった。まだ何も置かれていない新品の教室達を見て回り、最後に三階の教室を回っていると、「この教室の窓から富士山が見えるんだよ」と教頭先生がおっしゃった。学年の皆で集まって窓の外を見ると、雪の積もったきれいな富士山が見えた。新校舎で生活するようになり、教頭先生が教えてくださった場所以外からも富士山が見られると気が付いた。階段の上の窓から、わたり廊下の窓から、そしてあの教室の窓から。今日も富士山は美しく雄大な姿で私達を見守っている。

富士市立元吉原中学校

## クリビジェロスバレンティナ

わたしは日本に来てから、何回も富士山を見ました。駅から見えることもあり、学校の遠足のときにも見ました。いつも大きくてきれいで、見つけるとうれしくなります。とくに、朝日にあたたっている富士山は美しくて、見ていると心があたたかくなりました。夕日にそまってオレンジ色に光るすがたも好きです。日本にきたばかりのころ、ことばや生活にまだなれていなくて、不安でした。でも、富士山を見ると少し元気が出て、「だいじょうぶ」と言ってもらっている気がして安心しました。

富士山は日本のお母さんのような存在で、やさしくて、いつもそばで見まもってくれていると思います。これからもたくさんの人に元氣と安心をあたえてください。いつか富士山にのぼって、上からのけしきを見たいです。わたしは、きせつの中で、一番すきなきせつは、春と冬の富士山です。冬は、ゆきがふってきれいだし、春は、ゆきがすこしもつるからです。いつもありがとうございます。

## 中学生の部

富士宮市立上野中学校

## 鈴木 那知

朝に見る富士山、お昼に見る富士山、夕方に見る富士山、晴れの日、雨の日に見る富士山、春夏秋冬に見る富士山、どれも違う富士山で毎日学校へ登校するときや、下校するときの楽しみです。私が小学一年生のとき、富士山ポスターコンクールがあり、ポスターを描きました。大きな三角の形に雪をぬり、青い空とにじを並べました。その絵が入選して、賞状と絵の具をいただきました。名前を呼ばれて前に出たとき、とてもうれしくて胸がドキドキしたのを今でも覚えています。あの経験のおかげで、自分の絵を描くことが好きになり、富士山の姿もいつそう特別なものになりました。その後も富士山を見るたびに、懐かしい友達に会えたようで心があたたかくなります。富士山は美しく日本一の山でありながら、火山として大きな力を持っています。その強さと優しさが、私たちに自然の偉大さを教えてくれるのだと思います。これからも堂々とした姿で立ち続けていってください。

富士宮市立上野中学校

## 清 勝利

二〇一〇年、私はこの富士宮に生まれた。小さいときから富士山があるのが当たり前の生活で、富士山の何がすごいのかは当時の私には分からなかった。二〇二五年、中学三年生だ。受験生になり、クラスにはまだ笑顔があるが、みんな受験のことで悩んでいる。私もみんなと同じように悩んでいた。「志望校に合格できるのか。この高校で本当に良いのか。」そんなことに頭を支配されながら、家に帰っているときだった。いつも足元ばかりを見て歩いていくけれど、そのときだけは少し視線を上げてみた。すると、視界に富士山が入ってきた。私は目を奪われてしまった。そのとき見た富士山は、とても大きく堂々としており、「何も心配することはない。安心しなさい。」と言っているようだった。そのとき、私は気づいた。富士山は人々に勇気を与え、悩んでいる人たちの心を癒やしているのだと。富士山、僕頑張ります。あなたのように人々に勇気を与えられるように。

富士宮市立上野中学校

## 幡野 史織

私の学校からは富士山が良く見えません。とくに、テニスコートから見る富士山はとても大きく、迫力を感じられます。私は七月にテニス部を引退したばかりで、練習に励んでいた頃はときどき東の方を見あげると、そこにはいつも富士山があつたことを今でも覚えています。春夏秋冬、暑くて汗だくになった日も、急な雨に驚いていた日も、ずっと富士山はそこにいました。雲でかくれたり赤色に染まったり、様々な姿に変化しながら、私達を特別励ますこともなく、ただそこにおいて安心感を与えてくれる存在でした。引退してから一ヶ月がたった、夏休みに用があつて学校に行きました。テニスコートのそばにある部屋の前を通りすぎると懐かしいにおいがしました。中学校生活の半分以上を過ごしたその場所から見た富士山は、懐かしさとこれからの希望で満ちていました。

## 中学生の部

富士宮市立上野中学校

## 御宿 羽詩

八月十三日の夕方、毎年決まって富士の向こうの遠い空を眺める。亡くなった祖父が馬にのって富士の向こうから帰ってくると小さいころから言われてきたからだ。

私は祖父に会ったことがない。私が産まれる何年も前に亡くなったからだ。祖父は今の私を見てどう思うだろうか。今を生きる私に何を願うだろうか。先人達、そして十万年も前から存在し続ける富士は今の日本や日本人を誇りに思ってくれているだろうか。

八月十五日の終戦記念日、私は市の放送に合わせて黙とうを捧げた。ずっと平和を祈り続けてきた日本にとって、今の政治や国民の民度は平和を維持できるものだろうか。

八月十六日、今年も送り火を焚き富士の向こうへ戻る祖父を見送った。そして富士に願う。物騒な日本にはなりませんように。同時に富士へ誓う。私達は二度と日本で戦争を起こさないと。

山梨県・富士吉田市立下吉田中学校

## 小野塚 こころ

私は三年間、弓道部で青春を過ごしました。富士山の目の前にある練習場で二年半、夜遅くまで矢を射る日々。矢が外れて悔しさで胸がいっぱいになった日も、仲間と笑い合いながら弓を引いた日も、部活帰りの上り坂から見える富士山は、いつも堂々と変わらぬ私を見守ってくれました。初めて弓を引いた日も、初めての的中した日も、応援してくれているかのように、富士山は目の前にいました。初めての大会のとき、父が富士山を背景に袴姿の私の写真を撮ってくれました。それは袴姿の初めての写真で一生の宝物の一枚。「富士山のように堂々と弓を引いて頑張りたい」と思えた瞬間でした。試合の朝、バスの窓から見える富士山は「頑張れ」と背中を押し、どこまでも続く大きな姿は私を優しく包み込み、安心と勇気をくれました。おかげで、私は弓道を心から楽しんで、全力で挑むことができました。富士山、私の青春を共にしてくれて、本当にありがとう。

山梨県・富士吉田市立下吉田中学校

## 渡辺 咲羽

「不安だな。」そんな想いでいっぱいだったのはクラス替えが行われる日の朝だった。環境の変化が苦手な私はこの日、とにかく足取りが重かった。私の頭にはネガティブなことしか思い浮かばず、足元の小石を見つめながら「自分の心も小石みたいになっちゃいけない」と思い、ますます悲しくなっていた。

そんなとき、ふと上を見上げると目の前に富士山がそびえていた。地元にあるから普段は気に留めないけれど、この時ばかりは堂々と変わらずそこに立つ姿をじっと見つめていた。どんな時も同じ場所で、静かに私たちを見守ってくれている。気づけば、不思議と勇気がわいてきた。

富士山、いつもありがとう。もらった勇氣や力を胸にこれからも前を向いて生きていくよ。周りの環境が変わっても富士山はいつもここにいて。それだけで安心できるよ。これからも、どうか見守っていてね。

## 中学生の部

富士宮市立西富士中学校

## 廣瀬 優彩

アタリマエ、とは何だろう。バスケットに入った私はふと思った。ある日他の校のコーチが「三年生がシュートをいれるのは当たり前。」そう言っていた。じゃあ、シュートをいれることができなければ当たり前にはなれないということなのだろうか。私はバスケットが苦手だった。シュートもドリブルもパスも体力づくりもすべてがきらいだった。体調をくずした部活帰り、アスファルトに小さなシミがポツリ、ポツリと増えていた。「アタリマエ」そんなこともできない自分がいやで、いつも「アタリマエ」でいる富士山にいらだった。次の日、いつも通り視界に富士山が入る。おもわず目を見開いた。富士山が夕日に照らされ、きれいなオレンジ色に染まっていた。それはいつも見ているアタリマエ、の富士山ではなかった。私は気づいた。いつだって「当たり前」はないんだと言うことを。いや、富士山が気づかせてくれた。私はそれ以来、「アタリマエ」にしばらくられない。富士山、ありがとう。

富士宮市立西富士中学校

## 佐野 蒼羽

神奈川県に暮らす祖母は富士山が大好きだ。天気がいい日には「富士山のてっぺんが少し見えるよ。」とメールが届く。そんな日には私も富士宮市から見える大きな富士山を送り返すのが習慣になっている。

ある日、そんなやりとりがもっと特別に感じられた出来事があった。晴天の日、散歩に出かけた途中で見た富士山はいつにも増して鮮やかで止まらずにはいられなかった。ふと祖母から届いたメールを見ると、「富士山がきれいだね。」と書いてあった。

祖母と私は住んでいる場所も、見る角度も違うけれど同じ富士山を見て心を打たれ感動を共有している。その瞬間を感じるだけで、人と人は富士山を通してつながることができると私は思った。

今日も通学路からみえる雄大な富士山を眺める。「今、祖母もこの富士山を見ているのかな。」と考えながら。

富士宮市立富士宮第一中学校

## 深澤 希一

僕の祖父には、富士山と深いつながりがあります。僕の祖父は写真屋さんをやっていて、昔からずっと色んな人の写真をとっていました。そんな祖父は人を笑わせるのが得意で、写真をとるときに、みんなが笑っていないから、ぬいぐるみを使って「ピピロパイ」など意味がわからないようなことを言って、シャッターをきります。写真を見ると必ず笑顔が写っています。そんな祖父は、お店の上からとった写真が受賞しました。その写真は桜と富士山と浅間大社がとてもマッチしていて、とても美しく幻想的でした。そんな祖父も三年ほど前にがんが見つかり、二年前の夏になくなりました。そして僕は、富士山にお礼を言いたい。受賞した写真は、法事るときに大きくかざられていました。祖父は、その写真が受賞したとき、きっと祖父は感動とうれしさがこみあげてきたことでしょう。僕もいつか、祖父のような写真屋さんになって富士山とみんなの笑顔をとりたいです。

## 中学生の部

富士宮市立富士宮第一中学校

## 佐野 葵唯

それはまだ暑かった日のこと、私の体はバスに揺られて毎日見てきた富士山に向かっていった。バスが進む道はただ木が生いしげって緑におおわれていた。バスの中は人でいっぱいだった。しばらくして、開けた場所があった、私はそこでおりました。道は石や岩がたくさんあって、もう少し登ると赤茶色の石でうめつくされていた。標高が高くなると段々すずしくなってきた。また酸素がうすくなっていくのを感じた。そのとき私は彩雲という虹色の雲を見た。虹のように輝いていたその雲を私は母からもらったカメラで何枚も、何枚も写真をとった。父もその写真を見てほほえんでくれた。私の富士山登山は五合目で終わった。父がポテトチップスの袋を持ってきてくれた。袋はすごくふくらんでいて、二人で大笑いした。そのときいっしょに食べたお弁当はつかれをふきとばすぐらい美味しかった。あの夏の富士登山は一生の思い出だ。今年も富士山が見れてうれしいと思う。

富士宮市立富士宮第二中学校

## 森谷 莉奈

最近、私は好きなことを大事にしたいと思うようになった。小さいころは「これが好き」って素直に言えたけど、今は少し照れくさくて、なかなか言えないこともある。

そんな気持ちのまま、学校帰りに浅間大社の横を通った。ふと空を見上げると、雲のあいだから富士山が顔を出していた。まっすぐ、堂々と立つその姿を見た瞬間、「好きなものは、好きでいいんだよ」と言われたような気がした。

富士山は、だれにも流されず、いつも自分らしくそこにいる。その姿がすごくかっこよく思えた。私も、自分の「好き」や「こうしたい」という気持ちに、もっと素直になりたい。まわりと違って、自分らしくいていいと思えるようになった。これからは富士山と一緒に、私も自分らしさを大切にしながら生きていきたい。このまちで、富士山と共に歩いていきたい。富士山のように、大きな心を持てる人になれるといいなと思う。

富士宮市立富士宮第二中学校

## 桑原 結佳

今年も富士山の山小屋に光りが灯った。夜になって家から見上げる山小屋の灯りは、空に輝く星のようだ。きつと富士登山をする人にとって山小屋は、頂上を目指す登山者の目標であり、希望の光だろう。

私は今年、中学生になった。新しいことに囲まれて不安ばかりの四月、「しっかりできるかな。」

そんな思いから緊張する日もあった。でも、学校からはいつも見慣れた景色の富士山がある。四月、まだ頂上にうっすら雪を残し、穏やかな富士山は、私をいつも優しく見守ってくれているように見えた。そう思うと、自然に緊張がほぐれ心が温まり、友達との距離も縮んでいったような気がした。

私はきつと、気づかないうちに富士山に癒され、背中を押してもらったと思う。私も富士山のように、人を支え励ますことができる人になりたい。そして、私も目標を持ってこれからの中学校生活を送っていきたい。

## 中学生の部

富士宮市立富士根北中学校

## 渡井 りあん

私にとって富士山は、いつも優しく見守ってくれていた曾祖母と同じような存在だと感じています。私の曾祖母は心配性で、一緒に保育園へ歩いていくたびに、毎回忘れ物はしていないか、ばんそうこうを持ったのか、十分に五回ほど聞いてくれていました。いまとなつてはすごく幸せな時間だったし、昔に戻りたいと心から思えます。そんな大切な存在がいなくなってしまうから、私の心にはぽつんと穴が空いているようでした。しかし、私の穴が空いた心に花を咲かせてくれたのはみんなからほこられていた富士山です。曾祖母と住んでいたお家からは、見ようとするとくびが痛むほど高い富士山が目の前にあります。そんな富士山は、いつも見守ってくれていた曾祖母と似ていて、学校へ行く際には、曾祖母のことを思いだしながらあいさつができます。富士山が近くにいてくれてよかったです。これからも見守ってくださいと伝えたいです。

富士宮市立富士宮第四中学校

## 龍田 舞

いつも私たちを見守ってくれる富士山。私たちの暮らしを豊かにしてくれる富士山。そんな日本一の山である君は、私たちの永遠の仲間であり誇りです。

今年の七夕の夜、家族で五合目まで星を観に行きました。そこは空気が冷たく、でもとても澄んでいました。見上げると、真っ暗な空に白い小さな星々がまたたいていて、とても神秘的でした。明かりのない富士山だからこそ、このような素敵な景色を見ることができたのだと思います。

下山する道中、たくさん鹿に出会いました。こちらを興味深く見つめたり、あるいは怯えて森のおくへ逃げたり。親子もいました。それぞれのびのびと暮らす鹿たちを見ると、「富士山って自然に恵まれているんだな。」

と、あらためて感じるができます。私たちが暮らしているこの町も、あなたがいるからこそ温かいのです。これから、その立派な姿で私たちを見守っててください。

静岡県富士見中学校

## 仲澤 瑚都那

私はバスケットが大好きだ。強くなりたいの一心で今は往復三時間かけて御殿場のチームに所属している。私は同年代の子に比べると背が低い。だからジャンプでボールを奪い攻めることは難しいため、ディフェンスで誰にも負けない守りを目指している。試合で当たり負けしない体をつくるため食トレは欠かせない。どの角度に体を入れるか、ふらつかないための体幹をどう鍛えるか課題は山積みだ。「小さい」からこそのことができるが必ずあるはずだ。いつもどつしりと構え、大きく見える富士山に教えてもらいたいことがたくさんある。台風の進路をはばみ最強なディフェンスでいつも私達を守ってくれる富士山。いつも頼りにされ、心の支えとなつている富士山。きっと私にも可能性はあるはずだ。体は小さくても気持ちでは負けない！相手や季節によつてたくさんさんの面を見せる富士山のように私も自分の武器となる長所を創り上げていきたい。目標は富士のように堂々と胸を張って！

## 中学生の部

静岡県富士見中学校

## 長澤 悠翔

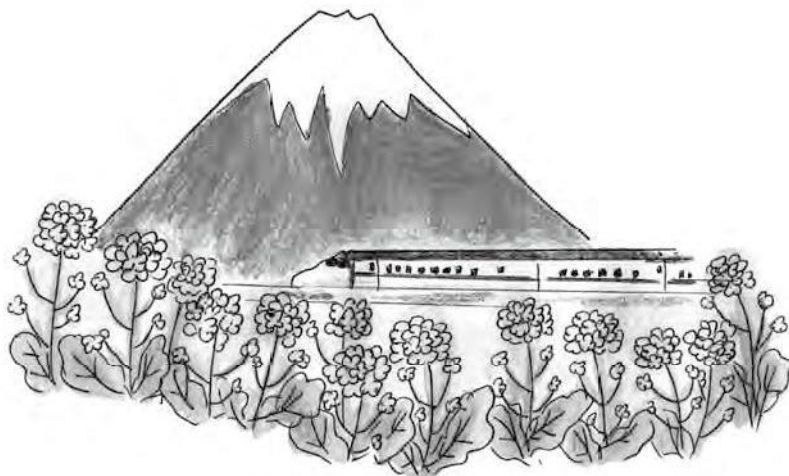
今年、僕の家は富士から清水に引っ越した。清水には三保の松原があり、海岸線からの富士山の浮世絵が有名で、江戸時代の人と同じ景色を眺められ気持ちがいい。しかし、富士山が小さい。富士市からの眺めと比べると、本当に同じ山かと疑いたくなる。そして、すぐに雲に隠れる。天気が悪ければ見える確率はもつと低くなる。離れてみて急に僕は富士山のことが気になりました。近くにいたときは気にもとめなかったのに。失ってはじめて気づくというのは、こういうことだ。引越して学べた大切なことだ。

僕は今、富士まで電車通学をしている。初めは緊張で周りを眺める余裕がなかったが、車窓から毎日違った富士山が見えることが分かった。流れる景色の中で富士山はぶれずに姿を変えながら徐々に大きくなる。見慣れた富士になると下車だ。行きも帰りも南側の席に座り、富士山の姿で今日の運勢を占っている。最近の僕の日課だ。

富士宮市立北山中学校

## 城内 唯菜

私の家の近くには富士山を神様として祀る古い神社があります。私は嫌なことがあったりする時に落ち着くのでよくその神社へ行くことがあります。この神社には外国人や県外から来る観光客がたくさん来ます。私は正直どうして遠くからこの神社に観光しに来るのかずっと疑問に思っていました。また同じように神社へ行ったら県外から来ている人に話しかけられ、「こんなに近くに富士山がある所に住んでいるなんて、幸せ者だね」と言われました。私はその時に初めて、当たり前のようにある富士山は富士山が身近に無い人たちからすると幸せを呼ぶ守り神のようなものだと気づきました。その富士山の近くに住んでいる私たちは、どれだけ幸せなことか改めて実感しました。富士山を見ようとここに来ている人たちも多分幸せを分けてもらおうために来てると思います。これからも富士山にはみんなを幸せにしてもらいたいです。



高校生・成人の部

宮城県 仙台市

## 八巻 孝之

拝啓 私の住むオランダは干拓地が広がり、山のない平らな国です。だからこそ、富士山の雄大な姿は、今も心の中で特別な輝きを放っています。春は淡い霞の中に、夏は真つ青な空を背に、秋は紅葉を抱き、冬は白く静かにたたずむ富士山——その美しさは、四季とともに変化しながら、自然の偉大さと私たちの心に寄り添ってくれているようです。富士山は、ただの風景ではなく、私にとっては故郷の象徴であり、生きる力を与えてくれる存在です。遠く離れた異国の地でも、富士山を思い浮かべるたびに、心の原点に触れる気がします。そして、富士山のように凜とした心を持ち、他者と向き合い、つながっていくことの大切さを改めて感じます。異国にいても、日本の自然を敬い、思いやる心を大切にしながら、心の富士山に抱く感動を未来を担う子どもたちへとつなぎ続けてほしいと思います。その願いをこの手紙に込めて。そんな未来をオランダで夢見て。

敬具

兵庫県 川西市

## 廣瀬 浩美

私の推し、富士山へ。西日本に住んでいる私は、あなたの姿を肉眼で見たことがありませんでした。あなたの姿を見たく触れたく、二十歳の時に登山しました。しかし、その日は曇り。結局あなたの全貌を見ることなく、上りは足元の赤土を見て、下りは雲海と樹海を見て登山を終えました。それでも、登山をするときで天界に到達したような、未知なる感覚を全身に浴びることができたのです。

それから時は流れ、私は関西と関東を新幹線で行き来する生活になりました。あなたの姿を見ると元気をもらえるので、座席は毎回E席を確保、うっかり見逃さないように通過時間にアラームをかけ、写真をたくさん撮り、あなたの姿に気づいていない外国人観光客には、お節介にも「ルック！マウントフジ!!」と声をかけてしまいます。暑苦しいかもしれませんが、これからも大ファンでい続けます。そのままのあなたでいてくださいね。

石川県 金沢市

## 礪波 恵照

私は登山初心者、日本一高く、唯一無二の誰もが憧れ続ける富士山：その富士の登山口に四十九年という歳月をかけてやっと辿りついた。登山開始、はじめに迎えてくれたのは鹿、山歩きのお手本とばかり、ゆつくりと移動しながら、私を上へと導く。次に出会ったのは、六合目から耳元で私に『無理するな』と羽根を『ブーン、ブーン』と響かせる虫と合流、虫の応援は山頂まで続き、私の歩をさらに上へと進ませてくれた。八合目付近この場所で会えることはそう無いと思われるが、この夏初めての蟬を岩の上で発見、成虫になつて一週間ほどの命の中で私より先にこの地に横たわる奇跡。富士山には大小関わらず命あるものが寄り、惹かれる何かがある、お互いの時間を重ねる場所なのだろうと感じていると最高峰剣ヶ峰、富士山頂へ！憧れは現実となり私の中で表現された美しい瞬間となった。ありがとう富士山はこれからも憧れの山：そして、私は人生五十年目を歩む。

高校生・成人の部

北海道 江別市

## 北澤 多喜雄

Uglyからbeautifulな富士山へ

富士山には最初中学生の時に親戚のおじに連れられ登った。午後から登りはじめ途中山小屋で一泊した。星が間近に見えびつくりした。ご来光を見るため暗い内に山小屋を出て山頂に着いた。その時、近くを歩いていたら外国人がuglyと言ったのを今でも覚えてい

埼玉県 さいたま市

## 木野田 博彦

「お母さん富士山が見えるよ」車椅子の母にそう伝えると、母は実に嬉しそうに富士を眺めた。晴れた日は介護施設の屋上で母と富士山を眺めるのが日課となっていた。母の笑顔は私の喜び、富士も笑顔の表情を湛えていた。しかしその母も旅立ち、やがて実家は人手に渡ることとなった。連日遺品整理に追われることとなり、残念ながら多くは廃棄することにした。何か申し訳ない気持ちで何度も処分場へと足を運ぶこととなった。

ある日道すがら荘厳なる富士山が目にとまった。笑顔のはずの富士は怒り悲しんでいるように見えた。その二年後私は突如大量の出血をし入院生活を送ることとなった。死をも覚悟したものの幸い無事退院することができた。その日病室から富士山が鮮やかに見えた。その表情には笑顔も悲しみも怒りもなく、ただ静かに「前を向いてしっかり歩んでいきなさい」そう言って励ましてくれていた。富士と優しくあった母が重なうって見え、私は手を合わせた。

福井県 坂井市

## 辻川 定男

もう二十年ほど前のことになるのだが、一人で白山に登った。頂上にいると、若い女性の二人組が登ってきた。彼女たちは遠くの景色に夢中になっている。どうやら白山は初めてのようだ。そのうちの一人が東南の方角を指さしながら、「あつ、富士山が見える。あれ、富士山だよ」と言い出した。もう一人も、「わあ、富士山だ」とはしゃいでいる。ん、白山からは富士山は見えないはずだが。わたしは彼女たちの指さす方角を見た。そしてゆつくりと彼女たちに近づき、「あのう、あれは富士山ではなくて、中央アルプスの三ノ沢岳です」と教えてあげた。当然感謝されるものと思ったのだが、彼女たちの反応は意外だった。「あつ、そうなんですか……。サンノサワダケか……。」と意気消沈したような返事だった。わたしもなんだか申し訳ないような気持ちになった。富士山さん、あの時わたしはどうしたらよかったのだろう。今でも答えが見つからない。

高校生・成人の部

群馬県 利根郡

原澤 君子

社会人になり、職場の主催で行ったテニスの合宿先が富士山。こんなに近くで見る富士は初めてでした。素晴らしい夕陽の富士山。四十年前も前になりますが、雄大な富士の姿は忘れられません。この時からずっとお姿を求め、旅の新幹線、車から、また都内の電車、さらには飛行機からとチャンスがあれば写真を撮りました。私にとって、元気チャージのそのものとなっているのです。そしてここ最近、もう言葉にできないほどの「富士山」を見ることができました。夫の退職祝いにて夫婦で静岡のホテルへ宿泊。到着した日は雨。ホテルの方と部屋に入り、「明日、富士山は見えるでしょうか」と私。返ってきたのは「富士山は恥ずかしがりやなですよ」なるほどと思った。がっかりするお客様への気持ちを思っていることとわかりました。そして翌朝。もうこの世とは思えない絵のような富士山が見えました。生涯忘れられない幸せな時となりました。この先も富士山と共にです。

静岡県立富岳館高等学校

市川 結李加

私の父はいつも富士山を見てこう言う「今日も元氣そうだ」と。  
私は、なぜ父がいつも富士山にそう言うのか分からなかった。父は出かけるたびに言っていたのである日、聞いてみた。すると父は「富士山はいつも僕たちの暮らしを静かに見守ってくれている。昔から今、たくさん人の暮らしを見守ってくれているから恩返しとして見守り返しているんだよ」と。  
私は納得できなかった。富士山は長く生きているから見守る必要はないんじゃないかと思っていた。  
でも今年の四月、父が亡くなった。富士山がよく見える部屋で静かに旅立った。その時、私は気づいた。富士山は、人の暮らしだけでなく、一生を見守っているのだと。  
父の言葉が、やっと心に届いた気がした。  
私はこれから父の意思を継いで、富士山を見守り返していこうと思う。

福島県 いわき市

永島 道男

小田原の友人より海拔ゼロメートルから富士山の頂上を目指すイベントに誘われた。海岸で小石を拾い剣が峰に置いてこようと思いついた。足柄峠を越え、浅間神社、富士アザミラインと歩き五合目に着いた。鳥居をくぐるとやっと登山らしくなった。六合目の小屋で仮眠し、午前一時に登山再開。外は寒く、そのうちに強風と雨。おさまるまでじっとしやがみ込んでいた。半時後にまた登ったが周りには誰もいない。やがて空が白み出し、神々しい太陽が水平線から出てきた。鳥居をくぐり抜けると頂上だった。が、本当の頂上は剣が峰だ。ついに日本一高い所に立った。途端に睡魔に襲われ寝てしまった。どれ程眠ったかわからないが、満足した気分下山した。名のごとく須走で駆け下った。立ち止まった所で、永と通が読める古銭を拾った。その時、「あつ、小石を頂上に置いて来るのを忘れた」と叫んでしまった。「富士さん、また登りに来るよ」と振り返って手を振った。

高校生・成人の部

神奈川県 川崎市

伊関 明子

富士登山をしたのは四十年前のことである。当時大学生だった私は、五合目で泊まりこみのバイトをしており、その最終日に一人で山に登った。暗くなつてから出発をして、頂上に着いたのは日が昇る前だった。登っている最中の山は混んでいて、細い道の前後は人の列が続いている。これが真夜中なのかと驚いたものだ。頂上では星空の美しさに息を飲んだ。空がとても近くて、星空が視界に収まりきらず圧倒された。星が目からあふれた。

日本一の山は、川崎市からでも眺めることができる。ちよつと高いところで視界を遮るものさえなければ。デパートの屋上から、祖父母が眠る墓地から、通勤途中の道から、勤め先の学校の四階の窓から。遠くから見ても素晴らしいが、登ることですぐと身近な山になるのだと思う。

晴れた朝には西の方角を眺めて、その姿を確認するのが習慣になつている。「今日は会えたね、ラッキー」と思いながら一日仕事に励むのである。

富士宮市

芦澤 義子

母が私の家族と暮らすようになって、三年余り。二階の富士山がよく見える部屋を気に入って、毎日眺めては楽しんでた。実家からの富士山は、宝永山を抱くしなやかな姿。我が家からの富士山は、大沢崩れを抱いた雄大な姿。「どっちがいい？」と尋ねると、母はいつも「どっちもいいよ。」と笑顔で答えた。それは、口には出さねど、長年住み慣れた自分の家を感じる気持ちになつていったのだろう。もちろん私の家でも、ひ孫たちと話したり、編み物をしたり、時には私の友達に編み物を教えたりと、楽しく過ごしていた。けれど、誰にとつても自分の家が一番なのだ。

その母が暮れに急逝した。「死んだら自分の家から出たい」と言う望み通り、実家から送り出した。今は、雄大で宝永山を抱く富士山が見守る墓地で、静かに眠っている。我が家の母の部屋から見える力強い富士山は、今ほどことなく寂しい。この部屋で、今もなお、母の白髪を見つけることがある。

広島県 三原市

用松 昌晃

富士山。私はかつて富士山測候所のレーダードームを見ようと、あなたを一度だけ登るつもりでしたが、ご来光や雲海の景色の美しさに魅了されたため何度も登頂するようになり、様々な登山ルートや一合目からの登頂も果たすことができました。それから、あなたを世界遺産に登録すべく清掃登山をするようになり、二〇一三年にあなたは晴れて世界文化遺産に登録されました。その時は、私も自分事のように喜び誇らしい気持ちになりました。

あなたを登らなくなり久しく月日は経ちますが、今では一目見ようと富士山本宮浅間大社へよく行くようになりました。雲行きや天候により、あなたを見掛けることができない時もありますが、あなたを見掛けることができた時は、その雄大な姿に時間が経つのを忘れる程、つい見入ってしまいます。これからも、日本一の山として、世界中の人々に愛される山でい続けてください。また、お目に掛かれることを楽しみにしております。

## 高校生・成人の部

富士宮市

## 会沢 尚代

「そんなのは我儘だよ。」「え！そんなの。」そう言われてびっくりした。富士山の前に山はなく、頂上から裾野まで全部みえるのが、富士山と私は思っていた。

東京にあこがれ、大学は東京と決めていた。「富士山が見えるよ。」講義室を出ると誰かの声がある。みんな屋上に向かって歩き出す。八王子のキャンパスからも富士山が見えるの？屋上に出て西に見えたのは、山々の上になちよこんと顔を出した富士山の一部分だった。「え、これが富士山？富士山は上から下まで見えてなくちゃ。」傍らで聞いていたのか、先輩はびっくりした顔で「そんな富士山見たことあるの」と聞いてきた。

私は富士宮で生まれ、高校までそんな全部丸見え富士山の麓で生きてきた。富士山全体が私の富士山そのものなのだ。今、この富士宮で生活し、毎日富士山の顔を見て、丸見え富士山と挨拶し、今日も元気にすごしている。そんな毎日があるがとう。

神奈川県 川崎市

## 松本 明莉

中学一年生の夏、私は静岡県民という理由で富士山に登ることが目標になった。両親が勝手に決めた目標であり、私は親に置いていかれるのが嫌で着いて行った。天候に恵まれ、無事に登頂。楽しみにしていたカレーうどんは、高山病により断念。残念な気持ちもあるが、目標は達成された。しかし次の年、両親は「本当の山頂」にいかなくては意味がないと、目標を再設定していた。

「本当の山頂」に繋がる「馬の背」は急斜面で、何度も足を滑らせた。どんどん遠くなる両親の背中に不安を覚えながら必死に登った。無事に登頂したときは、達成感で満ちていた。

私は今、地元を出て社会人三年目、まだまだ未熟、経験不足で不安だらけ。実家に帰る新幹線から眺める富士山、遠くからでも私には見える。たったあの距離、でもあの「本当の山頂」まで私は行ったことがある。富士山は、不安だらけの私に自信をあたえてくれる。ずっと変わらず見守ってくれている。

埼玉県 熊谷市

## 中前 佳子

私は富士山に登ったこともなければ、間近で見たこともない。遠くでなら見たことがある。場所は、埼玉県上尾市から川越市に向かうバスの中だ。出産を控えており、定期的に上尾駅からバスに乗り病院へ。私は、四国出身である。その為、富士山といえば新幹線から見る程度だ。上尾川越間の道のりに、なんとも言えぬ壮大かつ綺麗に見える富士山スポットがあるとは全く知らなかった。初めて見た日、感動して夫とバスの中でわくわくした。

初めての出産で検診にいくのは、毎回億劫だった。しかし、何故か私が検診に行く日はいつも晴れていて、美しい富士山が二月の極寒の日には、不安を和らげてくれた。大丈夫だよ、赤ちゃんは無事育っているから安心して！というように。

わが子は、予定日当日に産声をあげた。富士山へ。引越してきて、右も左も分かってない私を遠くから見守ってくれてありがとう。お陰様でわが子は、健やかに成長中。

高校生・成人の部

青森県 青森市

## 千田 立煌

拝啓 富士山さま

小学生のころ、道徳の教科書で「富士山がごみでよごれている」と知り、胸がちくりと痛みました。

あんなに立派できれいなあなたが心の中では泣いているような気がして、驚いたのを覚えています。けれど、飛行機に乗ったとき、雲の海から顔を出すあなたを見つけ、「本当の私はここだよ」と語りかけられたような気がしました。思わず小さく手を振ったのを覚えています。

帰り道に買った富士山ゼリーは、空色と雪の白がそのまま閉じこめられていて、食べるたびに心がほっとしました。その小さな甘さの中で、「あなたと一緒に生きる」ことの意味を考えたいのです。美しい景色を守ること、自然と向き合い続けること、それが私たちの責任であり、喜びでもあるのだと。

どうかこれからも堂々とそこにいてください。私もあなたに恥じないよう、一歩ずつ生きていきます。

敬具

千葉県 流山市

## 小田川 翔夢

あなたの山肌に刻まれた噴火の痕跡を見るたび、破壊と創造が表裏一体であることを思い知らされます。宝永の大噴火から三百年、人々はあなたを恐れながらも愛し続けてきました。

昨年、吉田ルートを登った時のことです。五合目を過ぎた頃から酸素が薄くなり、一歩一歩が重くのしかかりました。でも山頂で見た御来光は、自分の限界を超えた者だけが得られる特別な贈り物でした。雲海の間こうから昇る太陽は、まるであなたが私に「よく頑張った」と語りかけているようでした。

今、環境問題であなたの姿が変わりつつあることを知っています。雪が少なくなり、登山者のマナー問題も深刻です。私たちはあなたから多くを学びながら、十分に敬意を払ってきたでしょう。

あなたは単なる観光地ではない。信仰の対象であり、日本人の心の支柱です。これからは見る者として、登る者として、もっと真摯にあなたと向き合いたいのです。

